

卯月を迎えて

分所長 高木敏彦

新年度を迎えて子供たちは毎日元気に学校に通い、また新たな仕事に向かう人たちが街は活気に満ちている」の頃です。

来月は春の分所大祭を迎えます。敬けんな気持ちで大祭を迎えて真剣にお祈りを捧げたいと思います。皆様の「ご参拝をお願いします」。

いつも初心を

出口 直日

何ごとによらず「初心を忘れない」ということは大切だと思います。ことわけ、信仰には初心の気持ちが絶対的な要訣です。入信当初に、多くの人が奇跡的なお蔭をいただくことをみても、初心がいかに大切であるかということは分かります。いつまでも初心を忘れないように努め、いろいろのことがあっても、ことあるごとに、初心をふり返り、初心をおおきくしていくことが、信仰の要訣であります。

大祭の時など、新しい入信の方の真剣さを見て、古い入信の方は、初心に帰る反省の資とされることもよいでしょう。初心の人はただ一心に拝むことができますが、ものなれて来ると、そうはいかないのが人間の性です。そこでこの性を練えることによって、魂に力がいただけるので、「ここに、神さまの大きな愛を思わなければなりません。祭典時の緊張感が、

少しでも薄れるというのは、それだけ初心から遠ざかっているのです。何も祭典時に限ったことではありませんが、祭典は初心にかえる、もつともよい反省の機会であると思います。

信仰は、いつも、入信させていただいた当初の気持ちを失わないで歩まさせていただくことが大切です。人それぞれに応じてお導きいただいた初心を、いつも思いつつ敬けんな気持ちで歩ましてもらいたいと思います。

時々、今の自分が、思いあがってはいはしないか、あるいは、神さまの「ご恩」になれすぎてはいはしないかを考えてみましょう。

この信仰に入れていただくには、誰でも、そんなに軽い気持ちではない、純な何かのつびきならぬ動機をもっているはずで、その時の厳肅といつてもよい自分の気持ちを、いつまでも、心の奥の方でしっかりとつかんでいることが大切だと思います。

お筆先は、ものを判断する物尺にさしていただけます。けれども、神さまのお言葉で人を打つことは、つしまなければなりません。人のことが気になったり、人をせめたくなる時は、自分に対する「いましめ」を与えられている時です。お筆先をいただくことは、どこまでも自己の魂の糧としていただき、まず自分の心をお筆先によって磨かしていただきたいと思えます。

「寸葉集より」

本苑春季大祭奉納冠沓句

冠句題 『支え合い』『手を合わせ』『大祭に』

沓句題 『開祖伝』 締切 4月21日(日)

主な行事予定

4月21日(日) 午前10時より

三河本苑月次祭・直心会役員支部長会議

4月28日(日)

万祥殿献勞

5月4日(土)

教主様「ご生誕祭

5月5日(日)

みろく大祭

5月11日(土) 午後1時より

碧南分所信徒総会・大祭準備

5月12日(日) 午前10時半より

碧南分所春季大祭

5月19日(日) 午前10時より

三河本苑春季大祭

4月の誕生者

おめでとうございます！

高木 敏彦 4日 生田 凱 9日 高木 春代 11日

日 奥谷 雛子 12日 榎原 洋子 14日 松村

隆範 16日 高橋 佳織 20日 奥谷 有美子

24日 高橋 理子 24日 鈴木 正勝 25日

高橋 千紘 26日 神谷 章子 30日